



MFJ SUPERBIKE
All JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2008 MFJ ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP Rd.6
The 40th MFJ GrandPrix SUPERBIKE RACE in OKAYAMA



2008年 MFJ全日本ロードレース選手権最終戦 第40回 MFJグランプリ スーパーバイクレース in 岡山

EXTRA, EXPERT AND EXTREME
EXPRESS--

2008 VOL.

6

Photo by Y.Harada/H.Wakita(c)

秋吉耕佑が全日本開催コースを完全制覇! 6コースのレコードホルダーに!!



セカンドグリッドからは調子を上げてきた伊藤真一(＃33 KEIHIN Kohara R.T./写真左)、サードグリッドからは目下ランキングトップの中須賀克行(＃21 YSP&PRESTOレーシング)がそれぞれスタートする。

INFORMATION

**パドックバス・ピットウォークバスで
レースがさらに楽しく、より身近なものに!!**



マシンやライダーを「もっと間近に」観たい皆様にオススメなのが、このピットウォーク。各ピット前に並べられたマシンやライダー達に接近できるピットウォークは、レース観戦の醍醐味の一つ。記念写真やサインなど、様々なファンサービスも用意され、きっと思い出に残るでしょう。

※ピットウォークへは、パドックバスとピットウォークバスでご入場いただけます。パドックバス(¥3,000)、ピットウォークバス(¥1,500)は、メインスタンド上の総合インフォメーションで販売しています。

ピットウォーク
(12:00~12:50 予定)

TIME TABLE

※タイムテーブルは変更されることがあります。

09:45	-	GP125 コースイン〜選手紹介	
10:00	-	GP125決勝レース.....	15Laps
10:55	-	JSB1000 Race1 コースイン〜選手紹介	
11:10	-	JSB1000 Race1決勝レース.....	15Laps
12:00	-	12:50	ピットウォーク
13:10	-	ST600 コースイン〜選手紹介	
13:25	-	ST600決勝レース.....	15Laps
14:20	-	JSB1000 Race2 コースイン〜選手紹介	
14:35	-	JSB1000 Race2決勝レース.....	20Laps
15:35	-	GP250 コースイン〜選手紹介	
15:50	-	GP250決勝レース.....	15Laps
16:50	-	シリーズチャンピオン表彰式	17:30 - サーキットクルージング(2輪体験走行)

QUALIFYING PRACTICE REPORT

予選方式に秋吉の速さは関係なし

調子上げる伊藤真一も虎視眈々と勝利を狙っている!



ボールシッターインタビューで。(左から)JSB1000クラス秋吉耕佑、ST600クラス小西良輝、GP250クラス富沢祥也、GP125クラス徳留真紀。
決勝では、GP125、JSB1000、ST600の3クラスで2008年のチャンピオンが決定する。レースはもちろん、チャンピオン争いにも注目したい。



POLE POSITION 秋吉 耕佑 1'28.387

『事前テストで出た問題を2台のバイクに振り分けて、セッティングを変えてテストした。しかし、あまり大きく変わらなかったで素詰めることが難しく、まだ試行錯誤している状態。まだ詰められると思う。もう少しアベレージを上げないかね。決勝は雨が降ったら降ったで、その場の状況に応じて考えます。今回は鈴鹿の時のようなアドバンテージはないね。鈴鹿ではうまくセットアップが決まっていた。周りがうまく到達できなかっただけだと思う。みんな悔しい思いで岡山に来て、今回は混戦になるだろう。見ている人にとっては楽しいレースになるだろうね。その中で抜かれない走りをしたいと思う』



●予選日: 天候/晴 路面/ドライ
●決勝レース 第1レース コースイン/10:55 スタート/11:10(15周)
第2レース コースイン/14:20 スタート/14:35(20周)

いよいよ最終決戦となるMFJグランプリを迎える全日本ロードレース選手権。2008年シーズンは、岡山県・岡山国際サーキットが、その舞台となる。MFJグランプリは基本的に第5戦までにポイントを獲得したライダーのみしかエントリーできない。いわば選ばれた者のみしか走れないレースなのだ。

JSB1000クラスは28台が出走した。午前中に行われた予選1回目で早くも秋吉耕佑が1分28秒566をマークし、新コースレコードを樹立。伊藤真一、山口辰也、中須賀克行と続き、ノックアウト方式で行われる予選2回目を迎える。

第1セッションも、やはり秋吉が1分28秒550をマークしてリード。伊藤が1分29秒9台、3番手の酒井大作以下は、1分30秒で続く。JSB1000クラスは、タイヤ使用本数制限があるため各ライダーはタイヤの使い方を考えながらタイムアタックに入っていた。モ

リワキの山口にいたっては、ユーズドタイヤで3周し、21番手のタイムで第1セッションを通過。SP忠男の大崎誠之は、12番手のタイムを出した後にマシントラブルが発生。急遽スベアカーで第2セッションに臨むことになっていた。この時点で25位以下3台のグリッドが決定、24台が第2セッションに進んだ。

第2セッションでは、ほとんどのライダーがニュータイヤを投入。事前テストから徐々にマシンを煮詰めてきた伊藤が1分28秒619をマークし、秋吉以外で初めて1分29秒の壁を破ってくる。第3セッションに進むボーダーラインは12。セッション終了間際に安田毅史がタイムを出し、佐藤裕児が無念のノックアウト。辻村猛、波多野祐樹、今野由寛などが最終セッションへの進出を逃している。

そして最終セッションとなる第3セッションを迎える。12台という限られた台数によって争われるセッションだけに秋吉、そして伊藤が、どんなタイムをマークするか注目された。ここで秋吉は1分28秒387をマーク! これが文句なしのトップタイムとなり今季4回目のポールポジションを獲得、コースレコードも大幅に更新し、全日本ロードレースが開催されているすべてのサーキットでコースレコードを持つ男となった。「もちろん(コースレコードを)出すつもりだったし、まだまだタイムは詰められると思う。前戦のように逃げるのが理想だけど、今回は、みんな速いので混戦になると思う。でも両方とも勝つつもりで走りますよ」と秋吉。2番手の伊藤は「やっと戦える状態になってきた。秋吉はもちろん、中須賀もくると思う。

最終戦だし楽しくトップ争いをして終わりたいね」と余裕のコメント。ポイントランキングをリードする中須賀は自己ベストを更新し3番手につけた。「ウィークに入ってタイムも縮まっているし、いい流れできています。レースはスタートで前に出て、どれだけ踏ん張れるかが課題。ねばるしかないですね」と前に出て行く覚悟だ。酒井は前戦の負傷が癒えないものの、気合いの入った走りで行った1分28秒9台をマークし、4番手につけた。「痛みはだいぶなくなってきました。レースも気合いでいきますよ!」と厳しい状況ながら意地を見せたいところだ。以下、山口、徳留と続き2列目を確保。3列目に柳川明、大崎、安田が並ぶ。

レース1は15周、レース2は20周で行われる。やはり2レース制となった前戦では、両レースとも秋吉の独走となったが、今回は、そう簡単に逃げられそうもない。短期決戦となりそうなレース1、天候が気になるレース2、それぞれ違ったレース展開が待っている。最終戦だけに、誰もが、いい結果でシーズンを終わりたい気持ち強いはず。各ライダーの思惑が交錯し、繰り広げられるMFJグランプリ。中須賀が初タイトルを獲得するか? 秋吉が奇跡の逆転を果たすか? トップ争いはもちろん、タイトルの行方からも目が離せない!

●執筆紹介●

【佐藤 寿宏】

全日本ロードレース取材歴14年目を迎えるフリーライター。としひろの“とし”が“寿”なので通称“ことぶき”というめでたいヤツ。



4番グリッド/＃39 酒井 大作 ヨシムラスズキwithデンソー

KOTOBUKI'S
EYE

多忙に多忙なタディ!

第5戦鈴鹿で負傷した手島雄介の代役として登場した「タディ」こと岡田忠之。今シーズンは3度目の全日本参戦となるが、前回、安田毅史の代役として出場したときはブリヂストン、今回はダンロップ、さらに開発ライダーを務めるMotoGPではミシュランと、三つのタイヤメーカーを1シーズンで経験。マシンも三車(車?)三様な上に、第2戦筑波、第4戦SUGOと難しいコンディションだっただけに目立った結果は出せていない。しかし、

その中でも“さすが!”と思わせる走りを披露していた。

「岡山は1992年以来だから記憶にない」と言うだけに今回が初めて走ると言っても過言ではない。予選は最終セッションにしっかり残る12番手。雨になればクレバーな走りを見せてくれそうだ。



JSB1000 CLASS STARTING GRID

1	1'28.387 64 秋吉 耕佑 ヨシムラススキwithJOMO	2	1'28.717 33 伊藤 真一 KEIHINKoharaR.T.	3	1'28.760 21 中須賀克行 YSP&PRESTOレーシング
2	1'28.889 39 酒井 大作 ヨシムラススキwithデンソー	5	1'29.256 19 山口 辰也 モリワキMOTULレーシング	6	1'29.702 11 徳留 和樹 DREAM HondaRT11
3	1'29.711 87 柳川 明 TEAM GREEN	8	1'29.732 75 大崎 誠之 SP忠男レーシングチーム	9	1'29.785 2 安田 毅史 急募.com HARC-PRO.
4	1'29.913 62 横江 竜司 RT森のくまさん佐藤塾	11	1'30.130 5 亀谷 長純 Team 桜井ホンダ	12	1'30.410 48 岡田 忠之 DREAM HondaRT48
5	1'30.206 81 佐藤 裕児 ワイズギアレーシング	14	1'30.246 26 辻村 猛 F.C.C.TSR	15	1'30.718 13 波多野祐樹 MotoMap SUPPLY
6	1'30.765 15 今野 由寛 PLOT FARO パンテラ	17	1'31.067 16 津田 一磨 Team 桜井ホンダ	18	1'32.173 44 児玉 勇太 ウィダーD.D.BOYS
7	1'32.245 18 奥田 貴哉 チームOSG&モトスポーツ	20	1'32.763 52 森井 威綱 Honda鈴鹿レーシングチーム	21	1'32.798 24 東村伊佐三 RS-ITOH&KAZE
8	1'32.803 54 森脇 尚護 BABIE'S Racing デライト	23	1'32.980 57 石川 朋之 BusinessRalliant with angela	24	1'33.815 23 鈴木 慎吾 MOTO WIN RACING
9	1'33.828 25 本田 晃司 Z-TECH&マルメア/KMII	26	1'34.549 704 中村 知雅 中村エンジン研究所	27	1'35.722 31 古川 力也 HONDA浜友会浜松エスカルゴ

GP125 youth CUP に注目しよう! ポイントリーダーに授与、『ユースカップ』の行方は!?

17歳以下(登録時)の選手を対象にGP125クラスに設定されている「youthCUP」。スポット参戦も含めて14名のライダーがエントリーしており、第5戦終了時点で、このうちの9名がポイントを獲得する健闘を見せている。

中でも今シーズンは尾野弘樹(16)の飛躍が目立っている。前戦の鈴鹿では初の2位表彰台を獲得し、youthCUPランキングでは54ポイントで現在トップ。総合でもランキング3位につけている。今大会ではマシントラブルが解決できず予選で14番手と沈んでいるが、「youthCUPのランキングトップのまま終わるように、決勝では少しでも上でゴールできるよう頑張ります」と気合い十分だ。

尾野から7ポイント差の47ポイントでyouthCUPランキング2位につけている渡辺一馬(18)は、今回youthCUPでトップとなる予選6番手。渡辺は第4戦SUGOで優勝も経験しており、ポイントリーダーへの逆転も大いに狙える。

3位表彰台を2回獲得し、現在46ポイントを保持している日浦大治朗(14)も、8番手からのスタートと好位置につけている。

本日最初のレースとなるGP125クラスの決勝では、youthCUPの争いにも注目してみよう!

※写真は左から尾野弘樹、渡辺一馬、日浦大治朗



ST 600
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

●予選日: 天候 / 晴 路面 / ドライ
●決勝コースイン / 13:10 スタート / 13:25 (15周)

POLE POSITION INTERVIEW

小西が今季初ポール!
「誰が速いかハッキリ
分かるレースをする!」



POLE POSITION 小西 良輝 1'34.663

『今季初ポールですね。でも一発タイムより決勝でどれだけ勝負して勝つかだと思ふ。去年のタイムも超えてないし、予選は絶好のコンディションだったのに、これで終わって悔しい。鈴鹿の前までずっと連勝記録が続いていて、鈴鹿も勝ちたかったが、アクシデントがあってから野田選手のことか心配で、自分のペースを崩してしまった。(この岡山での)決勝はタイトル云々より、天気がどうであれ、誰が強いのか速いのかが重要。内容の濃い「勝ってなんぼ」というレースがしたいですね』

ST600 予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	1	小西 良輝	1'34.663	急募.com HARC-PRO.
2	33	刈田 庄平	1'34.857	RS-ITOH&KAZE
3	705	黒川 武彦	1'34.962	松本クリニックガレージスピード
4	72	宮崎 敦	1'34.983	TEAM DAYTONA GIVI
5	7	岩田 悟	1'35.038	F.C.C.TSR
6	2	高橋 英倫	1'35.103	TEAM GREEN
7	4	野田 弘樹	1'35.151	テルル・ハニービーレーシング
8	73	小林 龍太	1'35.322	急募.com HARC-PRO.
9	77	出口 修	1'35.362	DyDo MIU Racing
10	8	寺本 幸司	1'35.406	PLOT FARO パンテラ
11	43	生形 秀之	1'35.451	エスバルスドリームレーシング
12	76	清水 直樹	1'35.465	RS-ITOH&KAZE
13	5	武田 雄一	1'35.590	HITMAN RC甲子園ヤマハ
14	18	高橋 江紀	1'35.654	KEIHINKoharaR.T.
15	10	稲垣 誠	1'35.693	バーニングブラッドRT
16	70	佐竹 隆幸	1'35.783	チームOSG&モトスポーツ
17	83	須貝 義行	1'35.905	チームドゥカティレーシングジャパン
18	23	津田 拓也	1'36.035	チームOSG&モトスポーツ
19	21	中山真太郎	1'36.244	Kohara RC
20	61	川原 英実	1'36.493	G-TRIBE☆獣Kemono
21	13	泉本 真宏	1'36.546	RT森のくまさん佐藤塾
22	20	東浦 正周	1'36.618	DAIICHI&ブラズミュー
23	55	國川 浩道	1'36.650	DyDo MIU Racing
24	14	森 新	1'36.674	CLUB HARC-PRO.
25	19	大石 正彦	1'36.819	伊藤RACING・GMDスズカ
----- 以上予選通過 -----				
	22	新垣 敏之	出走せず	Team ARA 虎の穴
	60	古畑 博志	出走せず	レーシングチームハニービー

予選通過基準タイム (110%) 1'44.129
参加台数: 27台 出走台数: 25台

POLE POSITION
INTERVIEW徳留真紀がコースレコード
で今季2度目のP.P.
菊池寛幸は2番手

POLE POSITION

徳留 真紀

1'36.111

『去年とは違い、今年は予選がよくても決勝で気持ちよくなまらない。悪状況でのレースが多く、決勝で外している。その辺りがうまくいけば勝てるはず。テストではグリップがよくなかったが、レースウイークに入ってからいい感じ。予選ではクリアラップが取れず36秒1だったけれど、35秒台は入ると思ったので、タイム的に余裕はあるかな。決勝は“晴れの国岡山”なので晴れがいいね(笑)。ウエットなら菊池さんが速いと思うが、逆転されないようにしたい。浪平も最近調子がいいし、引き離すレースをして、(最終戦は)スッキリとしたいね』

GP125

予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	2	徳留 真紀	1'36.111R	チーム テック・2
2	8	菊池 寛幸	1'36.445	F.C.C.TSR
3	11	浪平 伊織	1'36.761	Honda鈴鹿レーシングチーム
4	7	山田 亮太	1'37.067	TEAM PLUS ONE
5	1	岩田 裕臣	1'37.270	DyDo Miu Racing
6	16 y	渡辺 一馬	1'37.382	TEAM PLUS ONE
7	78 y	大久保 光	1'37.443	橘川塾&ENDURANCE
8	46 y	日浦大治朗	1'37.649	Team NOBBY
9	22 y	矢作 雄馬	1'37.899	橘川塾&ENDURANCE
10	10	竹内 吉弘	1'37.973	プロマチックアイMS&YUE
11	6	柳沢 祐一	1'38.002	18 GARAGE RACING TEAM
12	31	花房 一樹	1'38.194	チーム テック・2
13	37 y	大金 佑輝	1'38.403	ENDURANCE&橘川塾
14	14 y	尾野 弘樹	1'38.434	BATTLE FACTORY
15	15	古市 右京	1'39.248	CLUBY's☆J-OFFICE
16	56 y	山本 剛大	1'38.631	Team NOBBY
17	4	仲城 英幸	1'38.635	Team Project μ FRS
18	48 y	中本 翔	1'38.763	
19	21	東 幸寛	1'38.906	TeamAZUMA&sonic
20	72	鎌田 悟	1'39.110	ENDURANCE&橘川スポーツランド
21	33	村田 憲彦	1'39.248	CLUBY's☆J-OFFICE
22	39	権藤 俊光	1'39.447	BATTLE FACTORY
23	81 y	山田 賢己	1'39.461	伊藤RACING・GMDスズカ
24	32	川瀬啓一郎	1'39.559	チーム KOHSAKA
25	61	今中 満	1'39.819	team RISKY
26	28	天野 邦博	1'40.036	Honda狭山レーシングチーム
27	64	畠 洋	1'41.281	チームKOHSAKA高橋商会

R印はコースレコードを更新した。従来のレコード=1'36.150

予選通過基準タイム(110%) 1'45.722

y=ユースカップ

参加台数:27台 出走台数:27台

POLE POSITION
INTERVIEW唯一31秒台をマーク、
好調富沢祥也がGP250
初ポールポジション!

POLE POSITION

富沢 祥也

1'31.594

『ポールはすごくうれしいけれど、レコードを更新できなかったのが素直に喜べないですね。(MotoGPにワイルドカードで出場して)自分でも大きく流れが変わった感じがする。GPライダーはタイムの出し方にメリハリがある。序盤しっかりタイムを出せば後半ラクになるとか、しっかりメリハリをつけると自然にタイムの出し方も決まってくるし、いい方向にセットアップできますね。決勝では宇井さんが速いのも、巧が根性あるのもわかっていてけど「どっちでも来い」(笑)。勝ちにこだわるといより、誰よりも記憶に残りたいですね』

GP250

予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	48	富沢 祥也	1'31.594	TeamProjectμFRS
2	41	宇井 陽一	1'32.358	SEV.spruce/PRO-TEC
3	2	高橋 巧	1'32.678	バーニングブラッドRT
4	5	濱本 裕基	1'33.574	SP忠男レーシングチーム
5	56	山崎 郡	1'33.635	HITMAN RC甲子園ヤマハ
6	3	及川 誠人	1'33.644	WILL-ACCESS&SJR
7	7	秋谷 守	1'33.845	チーム モトスペース
8	32	関口 太郎	1'34.702	Henkel プラスミュー
9	12	伊藤 勇樹	1'34.854	DOG FIGHT RACING
10	11	渡辺 一樹	1'35.085	RT森のくまさん佐藤塾
11	24	水野都由太	1'35.280	テック2 レーシング
12	14	中本 郡	1'35.566	RT・OUTRUNwithASS
13	46	星野 知也	1'35.786	WINJACK&4413
14	10	及川 玲	1'35.968	ペンタグラム&株權岡&M-Racing
15	47	瀬崎 恭広	1'36.155	カメイレーシング&Teamまんだい
16	21	福山 京太	1'36.359	TeamDankeRacing
17	19	小口 理	1'36.961	ALLMAN&OWR小口齒科
18	810	大西 明	1'37.024	大阪SAM.RT&Ys'F
19	53	久保山正朗	1'37.181	HONDA浜友会浜松エスカルゴ
20	22	小口 亘	1'37.628	ALLMAN&OWRACING
21	77	中尾 健治	1'37.656	レイラスポーツ
22	45	白木 晶夫	1'37.775	レイラスポーツ
----- 以上予選通過 -----				
23	93	遠藤 卓実	1'55.792	SEV.spruce/PRO-TEC

予選通過基準タイム(110%) 1'40.753

参加台数:23台 出走台数:23台

※上記は公式予選結果のデータをそのまま掲載したもので、レースにおける実際のスターティンググリッドではありません。

RACE RESULT

藤井謙汰(ケンタ)、
全日本初優勝!
乃村康友がチャンピオン
(国際)獲得!

ホールショットは乃村康友が奪い、安村武志、藤井謙汰(ケンタ)、小室旭、長島哲太と続く。その後安村がトップに立ち、オープニングラップは安村、乃村、長島、ケンタ、小室の順でコントロールラインを通過。この5台がトップグループを形成するが、小室が徐々に離されてしまう。レース中盤には長島も遅れ始め、トップ争いは安村、ケンタ、乃村の3台に絞られる。

レース終盤までトップを死守していたのは安村だったが、9周目のヘアピンコーナーでケンタが安村のインを差してトップに浮上。翌最終ラップで安村がトップを奪い返すが、ヘアピンコーナーで再びケンタが前に出ると、そのまま安村を押さえきり、全日本初優勝を決めた。安村は2位でゴール。3位には乃村が入り、シリーズチャンピオンを獲得した。

長島は4位でフィニッシュし、国内ライセンスのチャンピオンが決定した。

WINNER

優勝／藤井 謙汰

(写真右から二人目)

『自分のマシンはストレートが速いので、最終ラップの2コーナーで抜かれた後も、抜き返す自信があった。最後まで落ち着いてレースができたと思う。ここまでバイクを作ってくれたお父さん(TSR藤井監督)、チームの皆さん、応援してくれた人たちに感謝しています』

GP-MONO

決勝レース結果

Pos	No.	Rider	Team	Laps	Time
1	51	I 藤井 謙汰	F.C.C.TSR	10	16'48.044
2	11	I 安村 武志	テック2 レーシング	10	16'48.190
3	3	I 乃村 康友	モリワキクラブ	10	16'48.679
4	45	N 長島 哲太	TeamProjectμFRS	10	16'56.004
5	73	I 小室 旭	SQUAREプロジェクトハルク	10	16'57.775
6	1	I 森 隆嘉	TEAM PLUS ONE	10	17'03.718
7	2	I 中本 亮輔	モリワキクラブ	10	17'03.779
8	26	N 谷川 壮洋	TEAM PLUS ONE	10	17'03.883
9	8	I 山本 晃大	M-KID'S	10	17'04.133
10	9	I 岡田 義治	K&L JAPAN・RH松島	10	17'04.845
11	18	I 比企 徹	DyDO Miu Jr.	10	17'18.756
12	46	N 山本 恭裕	広島ガタRacing&LRC	10	17'18.876
13	21	I 小畑 仁	MOTO WIN RACING	10	17'18.910
14	34	N 山田 俊樹	バーニングブラッドRT	10	17'18.916
15	71	N 林 達也	teamA.A.O&MOTOBUM	10	17'19.165
16	16	I 赤間 清	CLUB HARC-PRO.	10	17'20.099
17	12	I 伊藤 公一	FACTOR&横井Eng	10	17'20.141
18	37	I 小山 隆浩	18 GARAGE RACING TEAM	10	17'20.535
19	48	I 根村 拓歩	18 GARAGE RACING TEAM	10	17'25.355
20	80	N 高瀬 敬次	マックウエスタン KSL	10	17'25.487
21	77	N 宮原 綾	広島ガタR&クシタニ広島店	10	17'25.690
22	19	I 江崎屋 孝	IS-P.CC/ブリティファート	10	17'26.133
23	50	N 矢田栄一朗	club MOTOBUM	10	17'27.200
24	44	N 貝崎 主典	バーニングブラッドRT	10	17'28.268
25	25	N 楠元 晃一	Garage130R&Jr's	10	17'29.209
26	151	I 吉道 竜也	レーシングチームハニービー	10	17'30.069
27	56	I Brodie Waters	モリワキクラブ	10	17'30.317
28	52	N 川村 明	MOTO WIN RACING	10	17'30.531
29	40	I 畑中 要	FTR・タイヤナビ・Big☆救	10	17'30.796
30	27	I 岳 栄一	VISIONレーシング	10	17'34.177
31	74	N 斉藤 幸大	ウイングジョイRC	10	17'50.648
----- 以上完走 -----					
38	N	法月多嘉夫	M・A・R・S elf&ベアー		スタート出来ず

ライセンス区分:I=国際、N=国内

R印はコースレコードを更新した。従来のレコード=1'40.111

参加台数:32台 出走台数:32台

ベストラップ: 51 藤井 謙汰 1'39.487 9/10 133.995km/h